

やく た き 役に立たない木

えんちょう こうち たかし
園長 高地 敬

ちゅうごく こうし なまえ ぞん おも きげんぜん せいき
中国の孔子は、名前だけならよくご存じだと思います。紀元前6世紀から5
せいき いま ねん まえ ひと きげんぜん せいき せいき もうし こうし
世紀、今から2500年も前の人ですが、紀元前4世紀から3世紀の孟子は孔子の
し そう う つ こうし おな じだい ろうし ひと こうし
思想を受け継いでいるようです。孔子と同じ時代に老子という人がいて、孔子
まった ちが し そう と な もうし おな じだい ひと
とは全く違う思想を唱えます。孟子と同じ時代に荘子(そうじ)という人がいて、
ろうし し そう に ろうそう し そう そうじ ほん
老子の思想に似ていて、「老荘」思想と呼ばれます。『荘子』という本には、い
ろいろ きょうみぶか はなし か
ろいろ興味深いお話が書かれています。

ば たいぼく はなし
「お化け大木」というお話があります。

ひと たび め ひ き ちかよ
ある人が旅をしていて、あるところでひとときわ目を引く木があった。近寄っ
てみると、ばしや だい かげ やす おお なん き
てみると、馬車1000台がその陰で休めるほど大きい。「いったい何の木だろう。
きと よ ざいもく と み えだ ま
きっと良い材木が取れるだろう。」けれどもよく見ると枝は曲がりくねっていて、
いえ た ざいもく ね あ つか
家を建てる材木にはならない。根はからみ合っていて、とても使えそうにない。
は くち は
葉っぱをかんでみると、たちまち口がただれてひりひりする。葉のにおいをか
い で み る と よ み っ か か ん ね こ か れ さ と なん や く
いでみると、酔っぱらったようになって三日間寝込んだ。彼は悟った。「何と役
に立たない木だ。だからこんなに成長できたのだ。このように無用を有用にす
る、そんな人が 貴いのだろう。」

むよう ゆうよう やく た やく た
「無用を有用にする」、つまり、役に立たないものが、かえて役に立つのだ
ということだと思いますが、このお話から私たちは、「役に立つことがいい事
だ」とあなた方はいつも かんが えて いる が、 果たしてそれでいいのか」と問いかけら
れているのだと思います。大人から見れば、子どもはだいたい役に立たないこ
とを して いて、 いっぼう こ だいじ いま
とを して いて、 一方、子どもにとったら大事な、今しかできないことを して いて
る。これは、大人どうしても、どんな人間関係の間でも言えることだと思います
す。役に立つものだけに価値があるというのは自分の かんが へ に しか 過ぎ ない の で
すが、わたし じぶん かち かん ゆうせん いっぼう こ ほか ひと
ですが、私たちは自分の価値観を優先させてしまいます。一方、子どもや他の人
にとっていいもの、役に立つものを さんちよう
にとっていいもの、役に立つものを 尊重することがどれくらいできているでし
ょうか。